



雪夜爐稿

坂郷手記

福島將夫

それから以後、四年、詩の世界に到る進境は判然と解る。が、學生時代の方が、反響がのつたようだ。

色々な嬉しい昔の文豪難

語がはづんでゐる。が、杉

壽は黙として語らず、エル

ムの稍の搖れみからかろい

厨が起つてゐる。

その翌々日かの午後だつ

て軽い持病の發作、私は胸

苦しく、氣持は何となく憂

鬱で、ちつと部屋に籠つて

は清爽玲瓈さながらの感じ

だつた。が、そのままから

「あ、そんな札幌の大

学は別な歌を唄ひますよ……

（43）中西洋春詩

志士の家（二）

二年生位な少年が、微笑を

もらし、近づいて來た。

「そんない下手ですか？」で

（44）布施長春詩

志士の家（三）

（45）中西洋春詩

志士の家（四）

（46）中西洋春詩

志士の家（五）

（47）中西洋春詩

志士の家（六）

（48）中西洋春詩

志士の家（七）

（49）中西洋春詩

志士の家（八）

（50）中西洋春詩

志士の家（九）

（51）中西洋春詩

志士の家（十）

（52）中西洋春詩

志士の家（十一）

（53）中西洋春詩

志士の家（十二）

（54）中西洋春詩

志士の家（十三）

（55）中西洋春詩

志士の家（十四）

（56）中西洋春詩

志士の家（十五）

（57）中西洋春詩

志士の家（十六）

（58）中西洋春詩

志士の家（十七）

（59）中西洋春詩

志士の家（十八）

（60）中西洋春詩

志士の家（十九）

（61）中西洋春詩

志士の家（二十）

（62）中西洋春詩

志士の家（二十一）

（63）中西洋春詩

志士の家（二十二）

（64）中西洋春詩

志士の家（二十三）

（65）中西洋春詩

志士の家（二十四）

（66）中西洋春詩

志士の家（二十五）

（67）中西洋春詩

志士の家（二十六）

（68）中西洋春詩

志士の家（二十七）

（69）中西洋春詩

志士の家（二十八）

（70）中西洋春詩

志士の家（二十九）

（71）中西洋春詩

志士の家（三十）

（72）中西洋春詩

志士の家（三十一）

（73）中西洋春詩

志士の家（三十二）

（74）中西洋春詩

志士の家（三十三）

（75）中西洋春詩

志士の家（三十四）

（76）中西洋春詩

志士の家（三十五）

（77）中西洋春詩

志士の家（三十六）

（78）中西洋春詩

志士の家（三十七）

（79）中西洋春詩

志士の家（三十八）

（80）中西洋春詩

志士の家（三十九）

（81）中西洋春詩

志士の家（四十）

（82）中西洋春詩

志士の家（四十一）

（83）中西洋春詩

志士の家（四十二）

（84）中西洋春詩

志士の家（四十三）

（85）中西洋春詩

志士の家（四十四）

（86）中西洋春詩

志士の家（四十五）

（87）中西洋春詩

志士の家（四十六）

（88）中西洋春詩

志士の家（四十七）

（89）中西洋春詩

志士の家（四十八）

（90）中西洋春詩

志士の家（四十九）

（91）中西洋春詩

志士の家（五十）

（92）中西洋春詩

志士の家（五十一）

（93）中西洋春詩

志士の家（五十二）

（94）中西洋春詩

志士の家（五十三）

（95）中西洋春詩

志士の家（五十四）

（96）中西洋春詩

志士の家（五十五）

（97）中西洋春詩

志士の家（五十六）

（98）中西洋春詩

志士の家（五十七）

（99）中西洋春詩

志士の家（五十八）

（100）中西洋春詩

志士の家（五十九）

（101）中西洋春詩

志士の家（六十）

（102）中西洋春詩

志士の家（六十三）

（104）中西洋春詩

志士の家（六十五）

（106）中西洋春詩

志士の家（六十七）

（108）中西洋春詩

志士の家（六十九）

（110）中西洋春詩

志士の家（七十一）

（112）中西洋春詩

志士の家（七十三）

（114）中西洋春詩

志士の家（七十五）

（116）中西洋春詩

志士の家（七十七）

（118）中西洋春詩

志士の家（七十九）

（120）中西洋春詩

志士の家（八十）

（122）中西洋春詩

志士の家（八十一）

（124）中西洋春詩

志士の家（八十二）

（126）中西洋春詩

志士の家（八十三）

（128）中西洋春詩

志士の家（八十五）

（130）中西洋春詩

志士の家（八十七）

（132）中西洋春詩

志士の家（八十九）

（134）中西洋春詩

志士の家（九十一）

（136）中西洋春詩

志士の家（九十三）

（138）中西洋春詩

<p

